

小・中・高における短時間の「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する調査研究

I 目的

小・中・高等学校において、短時間の「人間関係づくりプログラム」を組織的・継続的に取り組むことが、児童生徒の人間関係をつくる力を育成するために有効かを検証する。

また、学校において組織的・継続的に実施する上での効果的な取組や課題を明確にする。

II 結果

- 「実際の取組状況」「hyper-QU・WEBQUの結果分析」「教職員の意識変化アンケートの結果分析」から、本プログラム実施前後で児童生徒の良い変容を認めることができた。
- 管理職のリーダーシップの下、担当する分掌を位置づけ、組織的に取り組んだことから、全教職員の共通理解が図られた。
- 「人間関係づくりプログラム」の取組が、その時間だけの居場所づくり・絆づくりに留まらず、各教科の授業を始めとする学校生活全般にも良い影響を及ぼしていることも分かってきた。

III まとめ(提言)

「人間関係づくりプログラム」は、児童生徒の学校での居場所づくり・絆づくりに有効であると思われる。

特に、以下3点が重要と考える。

(1) 管理職のリーダーシップの下、組織的に取り組むこと

学校体制の中に担当する分掌を位置づけ、年間実施計画を作成し、全教職員の共通理解を図る。

⇒ 継続的な取組が可能になる。実態に応じた取組を進めることが可能になる。

(2) 継続的に取り組むこと

短時間での実施は継続的な取組を可能とし、実践の積み重ねが児童生徒の人間関係をつくる力を育成していく。

※中学校・高校においては、生徒自ら良さを見出し、エクササイズの内容作成などに主体的に関わることもできる。

(3) 実践交流の場を設定すること

実践交流会・YELL(教職員研修申込みシステム)における実践資料公開は、学校の取組を活性化させる。

⇒ 交流の場を市町村ごとに設定すると、プログラムが及ぼす効果の検証が可能になる。

